

川家の家督となった。

翌文禄二年五月、朝鮮の役は終り秀成は帰国して三木城に入ったが、十一月突然、秀吉は三木城を召し上げた。理由は明確ではないが、秀政の死の真相が秀吉に知られたものであろう。

秀吉は三木城の代わりとして淡路須本、伊予宇和島、豊後岡の三ヶ所を内示され、秀成は豊後国を検地中の山口玄蕃の助言で豊後岡を選んだといわれる。

これまで都に近い茨城城や三木城（兵庫県三木市）に住み慣れた中川家の家臣や妻子にとつて、九州の山奥、豊後岡への転出は容易なものではなく気の重いことであつた。妻子達の中には「鬼の住む所」と噂するものもあつたという。

【表紙写真解説】

彦岳は海拔六三九^尺、山頂には彦岳神社が鎮座し、大入島を眼下に佐伯湾を展望できる。狩生の王子神社から登ると国指定天然記念物の狩生鍾乳洞や大手洗の滝がある。春は山桜と新緑が、秋は紅葉が見どころ、「彦岳夕照」が佐伯八勝のひとつ。広域林道に出ると中島子玉の歌碑が建っている。



飛狐の聳ゆる処豪遊を試
む。道を夾んで松杉
白日幽かなり。谷暗うし
て巖陰に山鬼語らい、林
深うして樹梢に嶺猿愁
う。遠帆忽ち雲中に入
りて尽き、遙かなる嶼は
宛も天際に浮かべるが
如し。茅屋に帰り来つて
心恍惚、夢魂猶瀑泉の
頭に掛かる。